

新考
源氏物語の成立

— 目次 —

I 源氏物語とその作者たち

序の章 作者としての紫式部…………… 3

源氏物語の作者…3 / 「紫の上」という呼称…6 /

源氏物語の原本…8 / 作品に対する権利…11

第一章 物語の不思議な構成…………… 13

問題の多い冒頭部分…13 / 皇子として生まれた運命…15 /

添臥しの妻、葵の上…18 / 予期しなかった続き具合…20 /

光源氏の隠された一面…23 / 中の品の女との出会い…25

第二章 卷々成立への関心 29

巻と巻との繋がり方……29／推論か空想か……32／

「夕顔」の文章のテクニク……35／

荒れ邸でのひと夜……37／六条の御息所の物語……40／

事件の後始末……41

第三章 紫の君の物語 45

紫の君の登場……45／推定される物語の欠落……47／

書き入れられた話柄……49／明石の君の年齢……51／

紫と紅との対照……54／醜女と老女と……56／

物語の進行と執筆の順序……58

第四章 本格的な物語の構築 61

軌道に乗った進展…61／女性たちの二つのグループ…64／
 花散里への疑問…66／物語が構想される場…68／
 ひとつの想定…71／物語誕生の一例…73／
 五節の君という人…74

第五章 「上」と称せられる紫の君 …………… 67

帰ってきた光源氏…77／各人各様の思わく…79／
 嫉妬する妻の系譜…82／「紫の上」あるいは「春の上」…85／
 「上」の用例の初出…87／卷々成立の前後…89／
 武田宗俊説の及ぼすもの…92

第六章 紫式部の源氏物語 …………… 95

自作部分の検討…95／紫の物語の再検討…97／
 主要人物の勢揃い…100／世の中のあるべき姿…102／

絵合の巻の意図……104／退場する藤壺……107

第七章 朝顔の宮追従 …………… 111

宮と光源氏との位置関係……111／朝顔の名の初出……113／

花の盛りは過ぎやしぬらむ……115／

朝顔の宮の物語の特殊性……118／

朝顔の宮描出の意図……121／結婚しない女の人生……123／

補足されるその後……126

第八章 紫の物語の終局 …………… 129

肥大化した少女の巻……129／「少女」の語の指示する人物……131／

少女・藤裏葉の話題の構成……133／作者複数の可能性……137／

女房の文学の特色……140／玉鬘系の巻々への進展……142

終章 男性作者の登場……………147

物語收拾の事態…147／物語に関わる人物の性向…149／
見出された男性作者…151／仮定の上に立って…154／
最後に残る問題…156

II 論文三編

朝顔の宮追従に発して……………161

朝顔の巻への疑問…161／失われた場面の存在…164／
葵の巻の朝顔の宮…166／賢木の巻以後の地位…169／
女性たちの新旧交替…172／旧女性たちの登場と退場…175／

新編としての源氏物語…178／「光る源氏」と「輝く日の宮」…181／

新編源氏物語の成立…184

玉鬘十帖の論……………189

はじめに…189／玉鬘十帖の位置…190／

玉鬘十帖の作者…191／「玉鬘」から「野分」まで…194／

「野分」と「行幸」との間…197／玉鬘の人物造型…199

六条院の女性たち……………203

舞台としての六条院…203／いろごのみの構図…205／

玉鬘登場の意味…208／六条院世界の変質…211

Ⅲ 知られざる源氏物語

第一章 不幸な大作、源氏物語……………217

源氏物語は読まれていない…217／源氏物語は民間伝承か…219／

源氏物語悪文説…221／「かな文」の表現力…222／

敬語の特殊性…226／文章表現の次元が異なる…228／

獲得された表現力…231／物語としてのおもしろさ…234

第二章 源氏物語は何を書いた物語か……………241

光源氏は女性の敵?…241／源氏物語は淫靡な作品か…243／

「狂言綺語」の罪…246／源氏見ざる歌詠みは…248／
「もののあはれ」の論…251／恋の「あはれ」の特殊性…255／
源氏物語の春…257

第三章 物語の理想としての「いろいろのみ」……………261

をみなごよ、すこしよそはね…261／
「いろいろのみ」の論の提唱…265／古代日本人の恋…268／
「やまとごころ」と「いろいろのみ」…270／
用語例を検討して…274／理想の貴人の生涯…277／
折口信夫と源氏物語…279

第四章 あまたある源氏の物語……………283

「源氏の物語」誕生の理由…283／嵯峨源氏のひとり、源融…285／
物語化された源氏の事績…289／流謫の源氏、高明…292／

物語は成長する…295／成長する歌物語の一例…298／

源氏物語以前の古物語…302

第五章 源氏物語はこのようにして作られた(一)……………307

作り物語の虚と実と…307／齋宮に添って下る母…309／

夕霧誕生と葵の上の死…311／「とのうつり」の主題…314／

四町を占める邸宅…317／具体化された栄華の描写…321／

春秋の争い…323

第六章 源氏物語はこのようにして作られた(二)……………327

光源氏の苦難の時代…327／折口名彙「貴種流離譚」…329／

継承されるモチーフ…331／死に行くおとめ…335／

光源氏の「つままぎ」…337／宮廷巫女の末裔…339／

王氏の妻を求めて……342／結婚における男の使命……344

結語 知られざる大作、源氏物語……349

源氏物語全編中の最高峰……349／成長する光源氏……351／

源氏物語の未来のために……353

付 折口信夫の山田孝雄観

折口信夫の山田孝雄観……359

上……359

下……364

あとかぎ	371
内容細目	375
プロフィール	381
著書・編著書一覧	381
写真	383

伊藤好英

